

## 鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワークの取組状況

---

## 協議会・ワーキング

- 2023年2月に「鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク協議会」を設立した。また、2023年7月に「生息環境づくりワーキング」と「地域・人づくりワーキング」を設置して検討を進めている。

### 協議会『鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク協議会』【事務局: 淀川河川事務所】

◇開催回数: 年1回程度 ◇構成: 学識者／自治体／行政機関／団体・企業等

◇主な役割: 全体構想の策定、各主体の取組に関する情報の共有

### ワーキング『生息環境づくりワーキング』【事務局: 淀川河川事務所】

◇開催頻度: 年2回程度 ◇構成: 学識者／自治体／行政機関

◇検討事項: 桂川流域における鳴く虫の生息に適した環境の育成や管理の手法を検討する。

### ワーキング『地域・人づくりワーキング』【事務局: 淀川河川事務所】

◇開催頻度: 年2回程度 ◇構成: 学識者／自治体／行政機関

◇検討事項: 桂川流域における鳴く虫を活かした地域・人づくりの手法を検討する。

生息環境づくりワーキングメンバー

部門	所属	氏名
学識者	公益財団法人リバーフロント研究所 主席研究員	中村 圭吾
	京都先端科学大学 教授	丹羽 英之
	兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員	八木 剛
自治体	京都市 建設局 土木管理部 河川整備課	
行政機関	京都府 建設交通部 河川課	
	国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所	

地域・人づくりワーキングメンバー

部門	所属	氏名
学識者	徳島大学 教授	鎌田 磨人
	伊丹市昆虫館 館長	坂本 昇
	京都大学 准教授	深町 加津枝
自治体	京都市 建設局 土木管理部 河川整備課	
行政機関	京都府 建設交通部 河川課	
	国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所	

## 協議会・ワーキング等の開催状況

- 今年度は、各ワーキングを2回開催した。また、桂川・嵐山地区において、地域団体の方々に参加いただいて、現地案内会と座談会を行った。

	2022年度	2023年度	
協議会	第1回 2023.02.20	第2回 2024.03.05	
生息環境づくり ワーキング		第1回 2023.07.04	第2回 2023.12.19
地域・人づくり ワーキング		第1回 2023.07.03	第2回 2024.01.17
現地案内会 座談会		桂川・嵐山地区 現地案内会 2023.09.26	桂川・嵐山地区 座談会 2023.12.11

会議等	開催日	内容
第1回協議会	2023.02.20	鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワークに関して意見交換
第1回生息環境づくりワーキング	2023.07.04	桂川流域での鳴く虫の生息環境の保全・再生に関して意見交換
第2回生息環境づくりワーキング	2023.12.19	現状把握を踏まえ、鳴く虫の生息環境の保全・再生の手引書(案)に関して意見交換
第1回地域・人づくりワーキング	2023.07.03	桂川流域での鳴く虫を活かした地域・人づくりに関して意見交換
第2回地域・人づくりワーキング	2024.01.17	現地案内会、座談会を踏まえ、桂川・嵐山地区での地域・人づくりの取組に関して意見交換
桂川・嵐山地区 現地案内会	2023.09.26	桂川・嵐山地区の地域団体の方々と現地確認、アンケートにより興味・関心を把握
桂川・嵐山地区 座談会	2023.12.11	桂川・嵐山地区の地域団体の方々と鳴く虫の活用に関して意見交換

# 第1回鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク協議会

## ● 第1回協議会の開催概要

- 日時：2023年2月20日（月）14:00～15:30
- 場所：TKPガーデンシティ京都タワーホテル 9F「八閣」
- 議事：  
鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワークについて
- 主な意見：



- 川という自然が残る場所を核にしなが、川から呼びかけて街中に自然、虫を広げていく、かつ、そこに文化も一緒に取り戻されていくような活動に広がっていけばいい。
- 鳴く虫を対象とすることで月明かりの中で自然に耳を澄ますような、伝統的でありながら新しい自然とのふれあいという点で非常に可能性を感じる。京都に残る竹産業等との文化的なつながりも期待できるのではないか。
- 昆虫は地域の取組として扱いやすいと感じている。流域治水の関係では官民連携で河川の維持管理、流域の環境管理が行われている。草地管理においても地域全体で盛り上げるために、官民連携の視点が重要ではないか。
- 協議会の多様なメンバーからの視点を取り入れて、多くの人に「鳴く虫が面白い」と興味を持ってもらえるような取組を展開していけるとよい。
- 京都市の夜の観光や文化を基軸にしたまちづくりに寄与できる取組を考えていけるのではないかと感じている。
- 鴨川については行政としても賑わいづくりを展開しているが、夜に静かな中で虫の音を聴くというやり方もあるというお話は大変勉強になった。
- 生態ピラミッドの頂点ではなく、鳴く虫に着目した点で非常に興味深い。現場で保全活動をしている方や団体にも入ってもらい、活動を支援していくことを念頭に置いた方がいい。
- 鳴く虫を地域資源と捉えて、地域づくりの活動を支援していければと考えている。
- 京都市内の緑地を含めた桂川流域の生態系ネットワークが形成されることを期待している。
- 桂川河川敷に昆虫、鳴く虫が生息するということが、桂川流域、京都にとっても財産になるといいと考えている。昆虫が生息する草地管理、またそれを通じた社会経済への貢献を目指していきたい。
- 京都に多数いらっしゃる小規模ながらユニークな事業者を巻き込んで展開していくとよい。
- 地元の事業者とのつなぎ役という面でお手伝いさせていただきたいと考えている。

## 第1回生息環境づくりワーキング

### ● 第1回生息環境づくりワーキングの開催概要

- 日時：2023年7月4日（火） 15:00～16:30
- 場所：淀川河川事務所 第2会議室
- 議事：
  - ① 生息環境づくりワーキングについて
  - ② 桂川流域での鳴く虫の生息環境の保全・再生について
  - ③ 手引書の作成について
  - ④ その他

#### ■ 主な意見：

##### 桂川流域での鳴く虫の生息環境の保全・再生について

- 河川水辺の国勢調査などの既存の情報も利用して、現状把握をできる限りやっつけていければと思う。
- 面的に現状把握を行う場合、地域の方々に呼び掛けて、参加型の調査としてデータを取ることも考えられる。
- 鳴く虫は、環境の状態が良ければ敏感に反応する。細かなスケールでも反応するので、わかりやすくよいと思う。少し草丈の高い箇所ができれば、虫の種類が変わる。
- 水際で植生帯を設けるとよい。少しやってみて反応するのであれば、変化も捉えやすいと思う。
- 草刈りの時期や方法をコントロールすることは可能であるが、地域住民の賛同を得ることが必要である。
- 目的や目指す姿を住民と共有していかないと、なかなか話が進まないというところがある。
- 子どもたちが、鳴く虫の生息している草地で楽しんでいるという状態ができるとよいと思う。
- まず川の中でつないでみて、成功例をつくれたらよいかもしれない。

##### 手引書の作成について

- 「こんなことをやってみませんか」「草を伸ばしてみませんか」という姿勢で作成するとよいと思う。「つかまえてみよう」「育ててみよう」ということをぜひ項目に入れてもらいたい。
- メッセージ性のあるものの方が、最初の資料としてはよいと思う。



## 第2回生息環境づくりワーキング

### ● 第2回生息環境づくりワーキングの開催概要

- 日時：2023年12月19日（火）10:00～11:30
- 場所：中央流域センター2F 多目的ホール
- 議事：
  - ① 第1回生息環境づくりワーキングについて
  - ② 現状把握について
  - ③ 手引書の作成について
  - ④ その他

#### ■ 主な意見：

##### 現状把握について

- 鳴く虫の種類数が多い場所の特徴をつかめるとよい。
- 植生との関係、周辺環境との関係、河川の中であれば出水からの経過時間などを整理することで、生息環境づくりの分析につながるのではないか。
- 文部省唱歌の「虫のこえ」が作られた明治時代を時間スケールの出発点として考えることもできると思う。
- 河川と周辺の社寺や公園などの緑地との関係も見えていけるとよい。

##### 手引書の作成について

- 鳴く虫は人の生活や文化にも関わってきた存在なので、生息環境だけでなく文化的な部分も繋げていくというメッセージ性を出してもよいと思う。
- 最初の目標がエンマコオロギ、次がキリギリス、最終的にマツムシ、スズムシ、クツワムシを目指すという形のわかりやすいイメージをつければ、地域住民も理解しやすいのではないかと思う。
- 河川規模によって工夫できることが異なるため、河川規模で分けて考えることも必要ではないか。
- 鳴く虫の生息環境づくりには地域住民の理解が必須である。地域住民への情報発信だけでなく、学校教育の中で河川敷を活用するなどの方法も必要であると思う。
- 地域住民の理解の醸成には気づきが必要であると思う。市民参加による鳴く虫調査を実施したり、AIの音声認識を活用して鳴く虫の識別などができるようになれば面白い。



## 第1回地域・人づくりワーキング

### ● 第1回地域・人づくりワーキングの開催概要

- 日時：2023年7月3日（月）14:30～16:00
- 場所：京都大学 農学部総合館1F S130（第二会議室）
- 議事：
  - ① 地域・人づくりワーキングについて
  - ② 桂川・嵐山地区での取組の方向性について
  - ③ 桂川・嵐山地区での鳴く虫の活用に関する現地視察・意見交換会について
  - ④ その他



#### ■ 主な意見：

##### 地域・人づくりの進め方について

- 取組を進める上では、地元の組織に参加いただいた方がいい。できるだけ初期の段階で話をできればと思う。
- イベントを実施する場合、何か新たな体制をつくらないと結構厳しいのではないかと。鳴く虫を捕まえる人や育てる人、ガイドなどの人材を確保することが必要である。
- 具体的な取組を始める際には、自治体の専門の部署がいた方がいい。

##### 桂川・嵐山地区での鳴く虫の活用のアイデアについて

- 駅で虫を展示することも、準備は大変だが、いいなと思う。
- 嵐山は、竹が有名なので、竹を活かすと地域性が出て素敵であると思う。
- 地域学習に力を入れている学校などで、地元の材料を使って簡単な虫籠をつくるなどできないかと思う。
- 現地でのガイドというのはすごく楽しそうに感じる。安心して歩いて、舗装されていない道があると、とても観察がしやすいのではないかと思う。
- 地域の人に鳴く虫を理解していただきたいとか、お子さん連れでの虫捕りのついでに参加いただきたいという場合であれば、「この週末とこの週末には、この場所にガイドがいます」と周知する簡単なやり方が、鳴く虫でもできるのではないかと思う。

## 第2回地域・人づくりワーキング

### ● 第2回地域・人づくりワーキングの開催概要

- 日時：2024年1月17日（水）10:00～11:30
- 場所：京都大学 農学部総合館1F S128（第一会議室）
- 議事：
  - ① 桂川・嵐山地区での地域・人づくりの取組について
  - ② その他
- 主な意見：



#### 桂川・嵐山地区での地域・人づくりの取組について

- 地域の方々に参加してもらって、虫捕りのイベントなどを一緒にやることで、より前向きに進めていけるのではないかと思います。
- ガイドツアー用のガイドブックを、日本語版と英語版で作成できるとよい。同じように、教材も小学校用、中学校用などを作成するとよい。
- 河川敷などに歩き回れるような通路があれば、草むらの中にある危険な生物にあうリスクも減って、やりやすくなるのではないかと思います。
- ハチや危険生物に関しては、事前に確認し、地域の方々やお客様に入ってもらえるようにした方がよいと思う。
- ハチも遠ざけるのではなくて、そういうものも自然の中にいるということを含めた物の見方や、観察の仕方を伝えていくことが大事である。
- まずは、地域の方々に、こうやって鳴く虫を楽しめますよという形を体験してもらえるとよい。
- 鳴く虫の声を1つか2つでも知っているだけで、河川環境が身近に感じると思う。
- 地元の活動を持続的に進めていく中で、協議会の役割は大きいと思う。歴史・文化、河川、鳴く虫の知識を持っているかどうかで見え方が違うので、知識を提供していくことも役割の一つと思う。

#### 今後の進め方について

- 3年間の試行によって、桂川・嵐山地区の取組が回るようになれば、全国的なモデルになると思う。
- 桂川・嵐山地区での取組が成功して評判になれば、他の地域の方々の印象も変わると思う。
- 桂川・嵐山地区で取組を進めるにあたって、河川管理の視点を知っていただいたり、伝えていただく窓口として、座談会に参加してくださった方々とのつながりは重要である。

## 桂川・嵐山地区の現地案内会

### ● 桂川・嵐山地区の現地案内会の開催概要

- 日時：2023年9月26日（火）17:45～19:00
- 場所：桂川・嵐山地区 桂川河川敷
- 参加者：嵐山保勝会・嵐山まちづくり協議会・  
嵯峨嵐山おもてなしビジョン推進協議会・嵐山商店街 計7名  
京都市、京都府



#### ■ アンケート結果：

身近にマツムシ・スズムシなどの虫の音が  
聴けることを知っていたか

選択肢	回答数
よく聴いている	1
聴いたことはあるが、意識して聴いたことはあまりなかった	8
ほとんど聴いたことがない	0

マツムシ・スズムシなどの虫の音を聴いて  
みた感想や印象

選択肢	回答数
大変心地よい	5
心地よい	4
どちらともいえない	0
不快	0
大変不快	0

鳴く虫を活用する方法として興味や関心のあるもの

選択肢	回答数
鳴く虫のガイドツアー	9
鳴く虫文化について学ぶ講話	4
施設や店舗での鳴く虫の展示	3
施設や店舗での虫の音の活用	3
鳴く虫の採取や飼育	2
学校の授業での鳴く虫の活用	2

#### ■ 意見・感想

- 季節に寄りそう嵐山にもってこいの企画になるかと思う。
- 心を豊かにできるツアーや、観光客誘致につなげられると思う。嵐山の観光資源にしよう。
- 虫の音で観光スポットをつくりたい。風流ですばらしい。
- 嵐山の宿泊者の大半は外国人であるため、英語対応を検討することが必要である。

## 桂川・嵐山地区座談会

### ● 桂川・嵐山地区座談会の開催概要

- 日時：2023年12月11日（月）10:30～11:30
- 場所：嵐山保勝会事務所
- 出席者：嵐山保勝会・嵐山まちづくり協議会・  
嵯峨嵐山おもてなしビジョン推進協議会・嵐山商店街 計7名
- 情報提供・意見交換：  
桂川・嵐山地区での鳴く虫の活用（案）について
- 主な意見：



#### 取組全般

- 桂川・嵐山地区で鳴く虫を活用する場合の考え方としては、地域を意識したものと旅行者を対象としたものになる。
- 嵐山の繁忙期に新たなイベントを実施することは難しいが、8月下旬～9月中旬は閑散期に準ずる時期であり、我々も動ける可能性がある。
- 鳴く虫で直接的に儲けることは難しい。嵐山の自然の良さを伝えていくことで、人が訪れるようになるとよい。

#### 桂川・嵐山地区での鳴く虫の活用のアイデア

- ガイドツアーは、魅力的なものにしていくことが必要である。旅館などでオプションの形で行うことも考えられる。
- 地域住民や事業者に知ってもらう機会をつくることで、例えば、鳴く虫をモチーフとした和菓子など、事業者が独自に商売につながるアイデアを出していけるとよい。
- 桂川・嵐山地区の鳴く虫の解説板を設置できるとよい。解説板には、虫の声が聴ける場所を図示して、鳴き声を聞けるようにQRコードをつけてはどうか。
- 鳴く虫の解説板を設置することで、みんなに知ってもらえるだけでなく、我々やガイドの方たちが案内する際にも利用できる。
- 鳴く虫を捕まえてみようから始まるのは、子どもも喜びそうである。鳴く虫を捕まえたり、育てたりすることは、地域に根差したものになると思う。
- 小学校の授業の一環で、鳴く虫を捕まえ、各クラスで育ててもらうこともありうる。児童が虫を捕まえて、育てることで、地域の自然への関心が高まり、地域の愛着もはぐくまれるとよい。野外での危険についても、子どもたちに伝えていけるとよい。
- 竹の虫籠を用意し、虫を入れて店頭飾るのもよいかもしれない。